

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科				
科目名称	物理学実験				授業形態	実験			
科目コード	420510	単位数	1単位	配当学年	3	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	福山 敦彦							ICT活 用	
授業概要	物理学実験の意義は、体験を通して物理を理解すること、グループ学生との共同作業により協働性を学ぶことにある。本実験では、実験を始める前あるいは実験をしながら学生自身に実験の物理的内容を考えてもらい、得られたデータを整理して、そこから自分で何らかの結論を導き出すよう配慮している。内容は、基礎物性、電気、熱に関する実験で、物理現象の理解を目指している。								
関連する科目	物理に関する科目を受講していることが望ましい。また、実習科目等グループで実施する科目を受講していることが望ましい。								
授業の方法と進め方	1~3人のグループに分かれて実施する。それぞれのテーマについて、初回は実験を行いデータ取得を実施し、次の回に実験結果の解析や検討、レポート作成を行う。なお、実験はグループで実施するが、実験結果の解析や検討、レポート作成は各人で行う。								
授業計画【第1回】	実験を行うにあたって（実験の心得、観測データの整理法についての説明）								
授業計画【第2回】	実験①(ボアソン比の測定)を実施する。 得られた実験結果の解析を行い、目的とする結果が得られたかどうか確認する。								
授業計画【第3回】	実験①に関するレポートを作成し、提出する。								
授業計画【第4回】	実験②(固体の比熱の測定)を実施する。 得られた実験結果の解析を行い、目的とする結果が得られたかどうか確認する。								
授業計画【第5回】	実験②に関するレポートを作成し、提出する。								
授業計画【第6回】	実験③(たわみによるヤング率の測定)を実施する。 得られた実験結果の解析を行い、目的とする結果が得られたかどうか確認する。								
授業計画【第7回】	実験③に関するレポートを作成し、提出する。								
授業計画【第8回】	実施した3つの実験結果を確認し、問題があれば再実験を行う。 提出したレポートについて不具合があった場合には、再提出を行う。								
授業の到達目標	以下の到達目標を設定する。 ・実験を通して各種物理現象を理解する。 ・実験を行い、適切な誤差範囲内の物理定数を得る。 ・実験結果の解析、検討方法を理解する。								
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)								
授業時間外の学習【予習】	配布されたテキストを読み、実験の流れや取得すべきデータが何かを理解する。								
授業時間外の学習【復習】	授業時間内に取得した実験データを用いて各テーマで求められる物理定数を算出する。その後、算出された値と目標値を比較することで、実験の妥当性を考察し、レポートにまとめる。								
課題に対するフィードバック	提出されたレポートを元に、講義の中で指摘等を行う。内容によっては再実験あるいは再提出を要求する。								
評価方法・基準	各自提出された3つのレポートをそれぞれ100点で採点し、3つの平均値で評価する。								
テキスト	別途、実験テキストを配布する。								
参考書	国立天文台編 理科年表 丸善								
備考									